

(別紙様式1)

平成30年度の目標及びその達成に向けた活動計画

都道府県名： 大分県
農業委員会名： 佐伯市農業委員会

I 農業委員会の状況(平成30年4月1日現在)

1 農家・農地等の概要

農家数(戸)		農業者数(人)		経営数(経営)	
総農家数	2,357	農業就業者数	1,684	認定農業者	130
自給的農家数	1,218	女性	824	基本構想水準到達者	1
販売農家数	1,139	40代以下	30	認定新規就農者	19
主業農家数	180	※ 農林業センサスに基づいて記入。		農業参入法人	4
準主業農家数	140			集落営農経営	9
副業的農家数	819			特定農業団体	0
				集落営農組織	9

※ 農林業センサスに基づいて記入。

※ 農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	普通畑			計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	1,410	520	-	-	-	1,930
経営耕地面積	888	230	116	108	6	1,118
遊休農地面積	121	128	-	-	-	249
農地台帳面積	1,705	1,961	-	-	-	3,666

- ※1 耕地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入
※2 経営耕地面積は、農林業センサスに基づいて記入
※3 遊休農地面積は、農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した第32条第1項第1号又は第2号のいずれかに該当する農地の総面積を記入

2 農業委員会の現在の体制

新制度に基づく農業委員会

任期満了年月日 H 3 2 年 7 月 1 9 日

	農業委員		定数	実数	地区数
	定数	実数			
農業委員数	17	17			
認定農業者	-	10			
認定農業者に準ずる者	-	0			
女性	-	3			
40代以下	-	2			
中立委員	-	2			

	定数	実数	地区数
農地利用最適化推進委員	27	27	27

*現在の体制を記載することとし、旧・新しいいずれかの記載事項は削除

II 担い手への農地の利用集積・集約化

1 現状及び課題

現 状 (平成30年3月現在)	管内の農地面積	これまでの集積面積	集積率
	1,930 ha	450.4 ha	23.30%
課 題	集積が可能な担い手を確保することが難しい。		

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 これまでの集積面積は、把握時点において担い手(認定農業者及び農業委員会法施行規則第10条で定める者)へ利用集積されている農地の総面積を記入

2 平成30年度の目標及び活動計画

目 標	集積面積 478.4 ha (うち新規集積面積 15 ha)
	目標設定の考え方:過去の実績をもとに設定
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・農地パトロール等による農地の状況把握 ・農地利用最適化検討会の実施 ・利用権設定の新規掘り起こしの推進(通年)

※1 集積面積は、当該年度末時点で担い手へ利用集積されている農地の総面積を記入

※2 新規集積面積は、集積面積のうち1年間に新規集積面積(非担い手が自作又は利用していた農地のうち、担い手に対して権利の設定・移転させた農地)をどの程度増加させるかを記入

※3 活動計画は、目標の達成のために何月に行うのか等詳細かつ具体的に記入

III 新たな農業経営を営もうとする者の参入促進

1 現状及び課題

新規参入の状況	平成27年度新規参入者数	平成28年度新規参入者数	平成29年度新規参入者数
	2 経営体	2 経営体	0 経営体
	平成27年度新規参入者が取得した農地面積	平成28年度新規参入者が取得した農地面積	平成29年度新規参入者が取得した農地面積
	1.0 ha	0.71 ha	0 ha
課 題	・初期投資費用が負担となっている		

※1 新規参入者数は、過去3年の農地の権利移動を伴う各年度ごとの新たな新規参入数を記入し、法人雇用や親元就農は含まない(欄の最も右が昨年度)

※2 新規参入者が取得した農地面積は、上段で記入した経営体が取得した農地面積の合計を記入

2 平成30年度の目標及び活動計画

参入目標数	2 経営体	参入目標面積	1.0 ha
活動計画	関係部署と連携し、新規参入を考えている相談者の相談に随時対応する。		

※1 目標は、1年間に新たに参入させる新規参入者数及び参入目標面積を記入

※2 活動計画は、目標の達成のために何月に行うのか等詳細かつ具体的に記入

IV 遊休農地に関する措置

1 現状及び課題

現 状 (平成29年11月現在)	管内の農地面積(A)	遊休農地面積(B)	割合(B/A×100)
	2,179 ha	249 ha	11.43%
課 題	小規模で点在している遊休農地が多く、所有者の高齢化、後継者の不在により、担い手への集積が難しい。		

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積と農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した同法第32条第1項第1号の遊休農地の合計面積を記入

※2 遊休農地面積は、農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した第32条第1項第1号又は第2号のいずれかに該当する農地の総面積を記入

2 平成30年度の目標及び活動計画

目 標	遊休農地の解消面積 10 ha			
	目標設定の考え方:利用状況調査、利用意向調査の成果を活かし、農地中間管理事業等の活用により遊休農地の解消をめざす。			
活 動 計 画	農地の利用状況調査	調査員数(実数)	調査実施時期	調査結果取りまとめ時期
		64 人	8月～9月	9月～11月
	調査方法	農業委員及び地区担当の農地利用最適化推進委員、協力員により、利用状況調査を行う。		
	農地の利用意向調査	実施時期	調査結果取りまとめ時期	
		11月～1月	12月～3月	
その他	遊休農地解消を目的として、交通量の多い交差点付近にある遊休農地に季節の花の植え付けを行う。			

※1 遊休農地の解消面積は、当該年度末時点の遊休農地の解消面積を記入

※2 遊休農地の解消面積は、市町村等が策定した目標を農業委員会が共有している場合には、当該市町村等の目標を記入しても差し支えない

※3 「その他」欄には、利用状況調査・意向調査以外の遊休農地解消のための活動を記入

V 違反転用への適正な対応

1 現状及び課題

現 状 (平成30年3月現在)	管内の農地面積(A)	違反転用面積(B)
	1,930 ha	0.6 ha
課 題	広範囲に農地が点在しているため、常に全農地の状況を把握することが困難。	

※ 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※ 違反転用面積は、把握時点において管内で農地法第4条第1項又は第5条第1項の規定等に違反して転用されている農地の総面積を記入

2 平成30年度の活動計画

活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・市報で違反転用防止の周知を図る ・農地パトロールや農地利用状況調査時に違反転用を把握し、所有者へ指導を行う。
------	--

※ 活動計画は、違反転用の解消や早期発見・未然防止のために何月に何を行うのか等詳細かつ具体的に記入